

# 安楽寺だより

第3号

## 紙面内容

- 2面 名古屋教区お待ち受け大会案内
- 3面 中央声明一年目を終えて
- 4面 仏教豆知識 (第三回)

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良  
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇  
 電話 〇五二(八四一)二六〇六

ひとの生を  
 うくるはかたく  
 死すべきものの  
 生命あるも  
 ありがたし

法句経

宗祖親鸞聖人  
 750回御遠忌

## お待ち受け同朋大会が開催される 別院本堂に四百名を越すご門徒の皆様が参拝

六月十九日、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌第二十二組お待ち受け同朋大会が名古屋別院本堂を会場(第一部)に開催されました。

前日からの雨も朝までに上がり、昼の受付開始と同時に第二十二組寺院(二十三ヶ寺)のご



名古屋別院本堂での法要

門徒の皆様が続々とおいでになり、四〇〇名を越すご参詣の方々で堂内の熱気も高まってきました。

一時半からの帰敬式は、本山鍵役の信明院師の執行で第二十二組のご門徒方六十一名お一人おひとりに剃刀の儀式があり、真剣な面持ちで受式されました。

休憩を挟んで、第二十二組小川組長と東谷教務所長の挨拶の後、医師の故・米沢英雄さんの詩「その人」が朗読されました。そして、第二十二組の住職・坊守・門徒全員で正信偈のお勤めが行なわれました。

三時半からは、元マラソンランナーの松野明美さんによる「次男が教えてくれた、勝ち負けじゃない生き方」と題した講演がありました。松野さんは現在四十二歳、マラソン競技選手という「人よりも少しでも速く」一番を目指す人生を歩んでこられた。〜2面に続く

（1面より続く）マラソン引退後結婚され、二人目の健太郎くんが重い心臓病を抱えて生まれて以降の苦闘の生活を切々と語られた。松野さんは健太郎君の姿を人に見せまいとしていたが、「夫は酸素ボンベを抱えて公園へ連れて行ってくれます。また夫は二年間次男を座って抱いたまま寝てくれました。本当に感謝しています」

## 我が子の姿に「いのちの尊さ」を感じた

「何で私の子として生まれたの」「産まなければよかったと思っただけでも何となく率直に話される。そして「手術を受ける我が子の姿に『いのちの尊さ』を強く感じました」と何度も頷きながら語られる松野さん。主治医の先生、保育園のともだち、ご近所方々に支えられ、「今では障害のある子の親としての誇りを持っています」



「ひとはやさしくなるために勉強するのですね」と話される言葉に感銘を受けました。

講演終了後、参加者全員で恩徳讃を唱和して第一部を終えました。

ご門徒の皆様と連れ立って第二部・懇親会会場のホテルグランコートへ移り、同朋大会参加の皆様との交流を図り、成功裏に終えることが出来ました。ご協力頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

### 安楽寺会館よりお知らせ

妙音通にあります安楽寺会館三階のトイレが今年五月より車椅子でご利用いただけるようになりました。  
開館時間中（平日・午前十時～午後四時）はご自由に見学できますので、一度お出かけいただきませうご案内致します。

## 名古屋教区お待ち受け大会

2010年10月 2日（土）

11:00～17:00

会場 名古屋別院本堂など

宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌をお迎えするにあたり、名古屋教区ではプレイベント事業として「お待ち受け大会」を企画しました。

日頃、二十二組・寺院で聞法されてこられたご門徒の皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。

・帰敬式 十一時～十二時 大谷暢顯門首執刀  
・法要・記念講演 十三時～十五時二十分

講師 高 史明氏

・パネルディスカッション 十五時半～十七時

◎ ご参加ご希望の皆様は安楽寺までお申し出下さい。  
(参加無料)

## 中央声明一年目を終えて

## 若院 吉田 昌史

本年五月十日～二十二日までの約二週間  
本山・東本願寺で中央声明講習が開講され  
ました。中央声明とは、簡単にいえば御経  
の講習を受ける場です。

声明（しょうみょう）とは、お葬式や月  
忌参り・報恩講などの全てのお勤めで唱え  
る（浄土真宗では称える又は読経・読誦）  
もののことをいいます。そして、長年にわ  
たって先人たちが伝えられてきた読み方で、  
今まですべて口伝で伝えられてきたと言わ  
れています。そのような声明を学ぶ場に私  
も今年から参加させていただきました。  
今年是一年生五十三人・二年生四十九人・  
三年生八十人が全国から本山の研修道場に  
集まり共に学びました。この中央声明一年  
目では皆様もよくご存知の「正信偈」や「阿

弥陀経」その他には「観無量寿経」「五濁念  
仏」「高僧和讃」「伽陀」などを学びました。こ  
の講習は三年間あり、終了時の試験に合格  
すれば「准堂衆」と呼ばれる資格を取得す  
ることが出来ます。「准堂衆」とは本山や別  
院での特別な出仕を許される資格で、言う  
なればお経のプロになる訳です。

はじめは軽い気持ちで申し込んだ訳です  
が、いざその場に立つてみると講習参加者  
の真剣に取り組んでいる姿を見て襟を正さ  
れた気持ちでした。二週間という短い間で  
したが、とても充実した学びをさせていた  
だいたと思います。

来年は親鸞聖人の御遠忌のため休講にな  
りますが、再来年の二年目に向けて日々精  
進したいと思っています。

## 九月に若院・結婚式

このたび、若院長男吉田昌史と

名東区にお住まいの神田章好さん長女

神田由香里さんの婚約が整い、

今年九月二十六日（日）午前九時半より

安楽寺会館にて結婚式を挙げる運び

となりました。

日頃は若院が大変お世話になり、

本当に感謝いたしております。未熟な

二人ですが、どうか若院共々、温かく

見守っていただけますよう何卒宜しく

お願い申し上げます。



# 仏教豆知識

第三回



## 『帰敬式』

伝統的に「おかみそり」という名称で親しまれてきた儀式ですが、正しくは帰敬式（ききょうしき）といえます。

私たちは、通常亡くなってから法名をいただければいいと思ってきましたが、本来帰敬式はお釈迦様の弟子になるという式です。

ですから、生きています今だからこそ私自身の人生の生き方・あり方を問い、学んで行くという出発の式が帰敬式です。

私たちは、ある程度の地位とお金があつて健康で長生きできればとの思いで生きています。しかし、その条件や関係が壊れたり、価値観が変わるとすべてのものが変わってくることとなります。私たちは何を依り所に生きたらよいのでしょうか。「賜りたいのちを生きる確かな依り所を明らかにせよ」というはたらきが、仏・法・僧の三宝です。三宝の遭遇うことよって空しく過ぎていく自分の人生に気付き、人生のはつきりとした依り所（立脚地）が明らかになるのです。

つまり、帰敬式とは仏・法・僧に帰依し、仏弟子として新たに出発する式です。

「仏」とは、苦しみに悩む人間を救おうとする南無阿弥陀仏の教えに目覚めた釈尊。

「法」とは、いのちの事実を私に教えて下さる仏の智慧のことです。

「僧」とは、仏のみ教えを依り所として集う人びとのことです。

帰敬式を受式しますと「釈」の字を冠した二字の法名を賜ります。それは「空しくない人生を生きて欲しい」と願っておられる仏様のはたらきに出遇うことを私の人生のうえにあきらかにしていく名告り（なのり）です。

帰敬式は、ご本山では、毎日ご影堂で行なわれます。名古屋別院では今年十月二日の教区お待ち受け大会と十一月十八日の報恩講ご満座に執行されます。安楽寺では毎年十一月十二日の報恩講で行います。受式をご希望される方はご連絡下さい。

### ※御遠忌の参拝日が決定

来年（二〇一一年）の宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌団体参拝は二十二組で実施しますが、**三月二十一日（春分の日）**に参拝することに決まりました。

詳細は後日ご案内致しますが、人数に限りがありますのでご希望の方はご予定下さい。

今年も六ヶ月が経過しました。毎日

忙しく生活していると「もう半年、あ

つという間だね」との言葉が返つてき

ます。『光陰矢のごとし』と申します。

考えてみると人生も同じことが言え

るのかもしれない。一度立ち止まっ

て、自分を振り返るひとときを持つ事

が大切と思う今日この頃です。

親鸞聖人が八百年の昔に自分を見

つめ、世の中を見つめ、仏さまの世界

に出遇っていかれたお姿を尋ねてい

く催し（聖人のご遠忌行事）に足をお

運び頂ければと念願致しております。

真宗門徒になるための本

大垣教務所発行 ご希望の方進呈